

早稲田大学・ふくしま広野未来創造リサーチセンター  
「再生可能エネルギーとスマートタウン」  
ワークショップ

「福島復興における再生可能エネルギーを活用した地域経営のあり方」(案)

主催: 早稲田大学・ふくしま広野未来創造リサーチセンター

Waseda-Bridgestone Initiative for Development of Global Environment

早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

共催: 早稲田大学環境総合研究センター・福島県広野町

後援: 福島県楢葉町(予)・福島県富岡町(予)

## 1. 趣旨

東日本大震災後、福島県は再生可能エネルギーの推進を復興の柱の1つとして、再生可能エネルギー発電設備の導入拡大、関連産業の集積、実証事業・技術開発等の取り組みを進めている。2012年3月に改訂された「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン(改訂版)」においては、原子力に依存しない社会づくりの実現に向け、2040年頃を目処に福島県内の一次エネルギー需要量の100%以上に相当する量のエネルギーを再生可能エネルギーから生み出すという目標を設定している。

しかし、多くの事業は大規模再生可能エネルギー設備導入が中心であり、福島復興において最も必要とされている雇用の創出や、エネルギー収益を活用したその他の地域課題の解決の視点が抜けている。

地域経営の観点から参考となるものとしてドイツのシュタットベルケが考えられる。シュタットベルケは、電力小売サービスのようなインフラサービスの提供と地域の課題を解決するためのサービスを組み合わせた仕組みの地域エネルギー会社であり、日本でも参考にして、地方自治体出資型の電力小売事業などのさまざまな事業が開始されている。しかし国内の先進的な事例も、エネルギー事業そのものの受益だけに主な焦点が当てられ、地域の包括的な経営に資する事業体に成熟したものとはなっていない。

このような現状を踏まえ、本ワークショップでは、再生可能エネルギー、地域振興、自治体新電力、地域エネルギー会社などの専門家を招き、再生可能エネルギーを活用した地域経営の具体的な活動内容や仕組み等について議論し、今後の福島復興における地域再生のあり方を広域的・長期的な観点から考える。

なお、本ワークショップは、平成30年度大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業「早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター事業」(研究代表者: 早稲田大学教授・松岡俊二、平成30年7月～平成31年1月)に基づくものである。

## 2. 日時・会場

日時: 2018年11月2日(金) 13:00～16:00

会場: 調整中

### 3. プログラム

司会：磯辺吉彦（早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター招聘研究員）

#### 【開会】

13:00-13:05 開会挨拶：松岡俊二（早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

#### 【報告】

13:05-13:10 趣旨説明：永井祐二（早稲田大学研究院・准教授）

13:10-13:30 佐々木秀三（福島県相双地方振興局局長）

「相双復興のチャレンジ（仮）」

13:30-13:50 稲垣憲治（京都大学プロジェクト研究員）

「自治体新電力の地域経営の現状と課題（仮）」

13:50-14:10 小野田弘士（早稲田大学環境・エネルギー研究科教授）

「再生可能エネルギーによる地域づくり（仮）」

14:10-14:30 日産自動車関係者（調整中）

「浪江町復興まちづくりスマートコミュニティ構築事業への協力（仮）」

#### 【コメント】

14:30-14:40 島村守彦（いわきおてんと SUN 企業組合事務局長）

14:40-14:50 小山田大和（(一社) エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議専務理事）

14:50-15:00 デロイトトーマツ関係者（調整中）

#### 【休憩 15:00-15:10】

#### 【パネルディスカッション・総合討論 15:10-15:55】

コーディネーター：永井祐二（早稲田大学研究院・准教授）

#### 【閉会 15:55-16:00】

松岡俊二（早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）